

コラム 豚胸膜肺炎について

令和元年9月発行 第6号

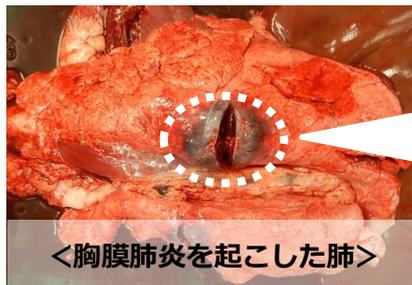
豚胸膜肺炎は、「**アクチノバチルス・プレロニューモニエ**」という細菌が起こす肺の病気です。肥育豚で感染しやすく、大きな経済的損失が生じます。

1. 症状

- ① 甚急性型：症状を示すことなく**急死**します。
- ② 急性型：**元気消失、発熱、発咳、腹式呼吸**等を呈して死亡します。
- ③ 慢性型：上記の症状を呈しますが死亡には至らず、**増体量が低減**します。

2. と畜検査では

写真のように肺の表面が**充血膨隆**し（左）、中心には**化膿巣**が見られます（右）。このような肺は**廃棄**されます。



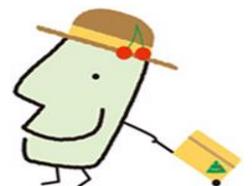
3. 発症要因と対策

保菌豚との接触で感染し、**ストレスが発症の引き金**になると考えられています。ワクチンも市販されていますが、**適切な飼養管理が最重要**とされています。

<対策>

- ① ストレスの原因（密飼、気温差、換気不良など）をできるだけ排除
- ② 豚舎を清潔に保持（可能であればオールイン・オールアウトを実施）
- ③ ワクチンや抗菌剤を適切に使用

対策については**管理獣医師等に相談**してみてください



山形県庄内食肉衛生検査所（データ還元担当）
TEL 0234-45-1285 FAX 0234-42-3850